【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【公開番号】特開2007-215481(P2007-215481A)
【公開日】平成19年8月30日(2007.8.30)
【年通号数】公開・登録公報2007-033
【出願番号】特願2006-39768(P2006-39768)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　48/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/42　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　ＺＮＡＡ
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｋ　47/42
Ａ６１Ｐ　35/00

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月24日(2008.12.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
【表１】

（表1）

21塩基（オーバーハング）	配列(19塩基対)	SeqID
AR1	CCGAGGAGCUUUCCAGAAU	1
AR24	GGACAUGCGUUUGGAGACU	2
AR61	CGGGAAGUUUAGAGAGCUA	3
27塩基（ブラントエンド）	**配列**	**SeqID**
AR1169	CUACCGAGGAGCUUUCCAGAAUCUGUU	4
AR4257	CACGGGAAGUUUAGAGAGCUAAGAUUA	5

本発明の２１塩基オーバーハング二本鎖ｓｉＲＮＡにおいて、前記３’末端のオーバーハングとは、５’末端から１９ｍｅｒが相補的な配列である２本の２１ｍｅｒのＲＮＡ鎖が対合して二本鎖を形成したとき１９塩基対の両端から突出する３’末端の２ｍｅｒの部分をいう。前記３’末端オーバーハングの２塩基の配列は、例えば、両端とも、ＴＴ（チミン・チミン）が好ましい。なお、前記３’オーバーハングの２塩基の配列は、これに制限されず、ＲＮＡｉ効果や細胞増殖抑制効果に実質的に影響を及ぼさない範囲であれば、任意の天然核酸塩基（アデニン、グアニン、チミン、シトシン、ウラシル）、並びに、天然及び人工の公知の修飾塩基であってもよい。また、前記３’末端オーバーハング部分のヌクレオチドは、通常、リボヌクレオチドを使用できるがこれに制限されず、ＲＮＡｉ効果や細胞増殖抑制効果に実質的に影響を及ぼさない範囲であれば、デオキシリボヌクレオチド、修飾リボヌクレオチド、その他の公知のヌクレオチド類似体を使用してもよい。さらに、本発明の２１塩基オーバーハング二本鎖ｓｉＲＮＡは、必要に応じて、前記３’末

端オーバーハングに代えて、５’末端オーバーハングとしてもよい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
上述のとおり、前記５種類の合成二本鎖ｓｉＲＮＡは、１ｎＭという超低濃度でも、有意なＡＲ遺伝子を標的としたＲＮＡｉ効果を示し、かつ、前立腺癌細胞の増殖抑制効果を示した。そのなかでも、ＡＲ４２５７は、とりわけ優れたＲＮＡｉ効果及び細胞増殖抑制効果を示した。